

『風は南から』

令和6年度 校長室便り
(1月20日)(第20号)



今年は戦後80年、昭和100年の年です

昨年、被団協がノーベル平和賞を受賞し、「戦争や核なき世界」について改めて考える機会をいただきました。ウクライナの戦況はあまり変わりませんが、ガザ地区は停戦に向けて双方が歩み寄りを始めたようです。

先日、台湾の来義高校の生徒とオンライン交流をした時に、一人の生徒が祖母から教えてもらったということで「お兄さんと肩を並べて学校へ行けるのは、兵隊さんのおかげです」と戦時中に歌われた「兵隊さんよありがとう」という歌を披露してくれました。本当に驚きました。台湾の人々は親日派が多く、東日本大震災や能登半島地震でも多額の寄付をしてくださっています。世界中の全ての人々が願うのは、安心して暮らせる平和な世の中です。そのために必要なものは、「武器」ではなく「対話」です。改めて台湾の高校との交流を続けたいと思いました。今年は、長崎と広島に原爆が落とされてから80年。私たちにできることは何か、真剣に考えたいものです。

3学期 始業式



1月8日(水)3学期の始業式を行いました。まず、私は式辞で、「時間を投資する」という考え方について紹介しました。「もし、一日に86,400円をもらえて、その日のうちに使い切らないといけないとすれば、どう使いますか?」と問いました。

86,400という数字は、一日を秒で表したものです。時間をお金に換算すれば、何もしないで過ごす時間は、もったいないという感覚になります。そこで、今から5年後、10年後自分がどうなっていたかを想像して、そのために今の時間をどう過ごすべきかと逆算して考えると、時間を有効に使いたいと考えるようになります。「時間を投資する」ということです。毎日の小さなことでも積み重ねれば、大きな成果をもたらします。

そこで、今年は、「スケジュール管理」をしてみようでしょうか?1ヶ月後、3ヶ月後、1年後の予定を日記やノート、端末に書いて、そこから逆算して今から1週間後、そして今日、何をしなければならぬかの「can-doリスト」を作って記録していくわけです。社会人になったと思って試しに始めてみてはどうでしょうか?意識が変わると思います。

その後、進路指導部の中村先生からは、目標を立てて具体的に一日何を学習するべきかを決めて実行したら、それが意識しないで「使える知識」のレベルになるまで繰り返そうという話がありました。

交通系の有留先生からは、5年後、10年後の自分を考えるためには、今生きていることが大事。そこで2025年にあやかって、25メートル車間距離を取って、学校到着予定時刻の25分前には家を出る習慣を身に付けようという話がありました。最後に、生徒指導部の上村先生は、「細谷功」先生の書籍から引用して、問題を解決する力よりは、問題を見つける力の方が大事。見つけた時点で解決の方向に動いている。自分で課題を見つけて、解決しようと主体的に考えて行動することを期待すると話されました。

先生方の話から刺激を受けて、3学期のよいスタートが切れた気がしました。

1月11日 知名町消防出初め式



知名町消防出初式に参加しました。寒い中ではありましたが、各消防団の分列行進や一斉放水等を見学させていただき、日頃から訓練に精励され、町の安心・安全な環境づくりに努力されている様子がよくわかりました。その中で「沖永良部高等学校生徒特別編成隊」の操法披露がありました。話を聞くと、正名字在住の高校生6名が、

団の方々から小型ポンプを使った消火競技の訓練の指導を受けてきて、この日が初披露ということでした。本団員に負けないキビキビとした行動と実演に感激し本当に頼もしく感じました。見学された方々からも「もう消防団に入ったらどうですか」「高校生の一生懸命な姿に感動しました」等の感想をいただきました。校内でも披露してもらいましょうか!

城ヶ丘中学校「進路について考える」 中学生からの「お礼と感想」より

12月18日(水)城ヶ丘中学校で行われた高校生による「進路講話」に、1・2年生が参加してくれました。その時の感想です。

- ・今回高校生講話を聞いて、普通科と商業科の違いや勉強の仕方、部活動について、夏休みの登校やテスト・模試の回数を知ることができました。私は沖永良部高校に行くので、高校生が今やっておいた方がいいと言っていた机に向かう習慣、勉強する習慣をつけられるようにしたいと思います。今回は講話をしていただきありがとうございました。
- ・今回の話を聞いて、私は今自分にできていないことをはっきりさせることができました。勉強は、受験に合格するまでではなく、高校に入ってから大切だと改めて思ったので、勉強に向かう姿勢を改めようと思いました。そして、自分がこれから何をしたいのか、今のうちからよく考えて、卒業までの間生活しようと思いました。私は中学校を卒業したくないと思っていたけど、先輩方の話を聞いて高校生活が少し楽しくなりました。今回は貴重な話を聞かせていただき、ありがとうございました。

台湾来義高校とのオンライン交流



1月16日(木)17時より生徒会と希望する生徒による台湾屏東県立来義(らいぎ)高校とのオンライン交流を行いました。昨年度、鹿児島県は台湾屏東県と交流協定を締結し、本校は県教委の「グローバルクラスルーム事業」で台湾との交流ができたおかげで、生徒3名と教員1名を屏東県の「屏東熱帯農業博覧会」に派遣できました。それがきっかけで、今回の交流が実現しました。それぞれの学校紹介が終わった後、4つのグループに分かれて、端末で交流してもらいました。翻訳機能を使いながら、中国語と英語と日本語、そしてジェスチャーを駆使しながら大変盛り上がりっていました。次回は3月に行う予定です。今後はもっと深い交流ができないか検討中です。